



この掛軸は、東海村の名前の由来である「^{せいぎ}正氣の歌」です。

中村康雄さん（東海ライオンズクラブ（LC）第36代会長）から、平成20年に村に寄付されました。^{おかざきたつき}岡崎竜城LC（愛知県）の小林吉太郎さんから、小林さんが名古屋の東海中学校・東海高校出身であることから、両「東海」のよしみで譲り受けたものだそうです。

東海村は昭和30年に石神村と村松村が合併して発足しました。新村名は、合併前の2つの村が共同で建設した東海中学校にちなみ、「東海村」と決められました。この東海中学校の名称「東海」は、「正氣の歌」の一節，“卓立す東海の浜”から命名されたものです（写真の赤枠）。

「正氣の歌」は、幕末に全国に水戸学の名を知らしめた藤田東湖が詠んだ詩です。

正氣の歌は幕末から昭和初期にかけて愛唱されたため、模造品を作った人が多くいました。この掛軸は、藤田東湖によって書かれたものとは、^{おうきやくいん}押脚印

（作品の下の方に押す印）と書自体に違いがあるようですが、東湖流に良く書かれており、「東海村」の由来を示す貴重な史料です。